



MINTETSU
NEWS

みんなつだより

環境への取り組み②

鉄道はエネルギー効率に優れた交通手段ですが、走行する際には大量の電気を消費しており、間接的にCO₂を排出しています。そこで鉄道事業者は、さまざまな施策を通じ、運転用電力量の削減に努めています。

小田急電鉄

【変電所のスケジュール運転】

小田急電鉄では2000年9月から、変電所のスケジュール運転を実施しています。

輸送力増強のためのダイヤ改正やバリアフリー化などの駅設備の改良のため、鉄道事業における消費電力量は上昇傾向にあります。なかでも、運転用電力量は、受電電力量（運転用電力量と付帯用電力量との合計）の約8割を占めているため、運転用電力量を削減することは重要な課題といえます。

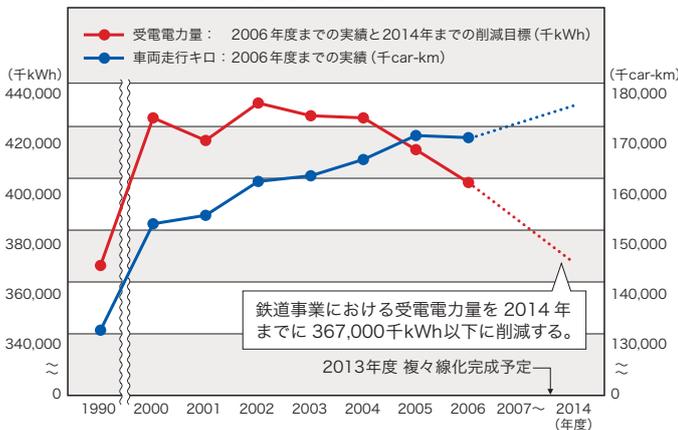
変電所のスケジュール運転は、運転用電力を供給する変電所において、すべての時間帯に変電所機器をフル運転するのではなく、列車本数の少ない時間帯に部分的に機器の運転を停止し、架線電圧を一定の範囲で下げること、再生電力を有効に活用し、消費電力量を削減するものです。

このスケジュール運転によって、2007年度は約678万kWhの電力を削減することができました。1世帯の1カ月あたりの電気使用量を300kWhと仮定すれば、約2万2600世帯の1カ月分の消費電力量を節約したことになります。



「輸送力の増強」と「省エネルギー」を両立

車両走行キロと受電電力量の推移および受電電力量削減目標



小田急電鉄では、快適な輸送サービスを提供し、公共交通の利用促進を図るために、複々線化事業などによる「輸送力の増強」に努めています。また、「輸送力の増強」と「省エネルギー」の両立を目指し、「鉄道事業における受電電力量を2014年度までに、3億6700万kWh以下に削減する」という目標を掲げ、省エネルギー車両の導入などさまざまな対策を推進しています。